

令和7年度 第3回 木更津市男女共同参画推進委員会 会議録

- 1 日 時：令和8年2月18日（水）午後1時30分から2時30分
- 2 場 所：木更津市役所 朝日庁舎 会議室1-2
- 3 出席者：（委 員）佐伯康子、生田まゆみ、前沢祐子、高田旭祥、岩野志穂、山本恵、森田恵奈、天野茂実、廣橋美帆（敬称略）
（木更津市）鈴木市民協働部長、兵藤地域共生推進課長、江澤係長、前沢主任主事、小泉主任主事

4 議題及び公開非公開の別

男女共同参画に関する意見交換 【公開】

- (1) 男女共同参画推進の意義について
- (2) 男女共同参画に関する市民アンケート（問6）の回答結果について

5 傍聴人：なし

6 議題の概要

- (1) 男女共同参画推進の意義について

【事務局の説明】

前回の第2回会議においては、次期計画策定に向け、現在の第5次計画を精査すべく行った庁内関係各課とのヒアリング結果についてお諮りし、その方向性について承認を得たところでございます。今後はこの方向性を参考に、次期計画の原案を作成していきたいと考えておりますが、それに加え、委員の皆様からの男女共同参画に対する多角的なご意見も取り入れたいと考え、今回の意見交換の場を設けさせていただきました。

まず、次第にあります意見交換事項①「男女共同参画推進の意義について」をご説明いたします。

昨年10月から12月までの間、当市では「令和7年度木更津市男女共同参画に関する市民・事業所アンケート」を実施しました。

資料1及び2は、市民・事業所アンケートの結果をそれぞれ集計したのになります。

アンケート結果のうち、自由記載のコメント（資料3）を見ると、男女共同参画に対する様々な意見が回答されております。「今後このようにするとよい」、「より推進していくべき」というような男女共同参画推進に対して肯定的な意見もあれば、「過度に推進するのは良くない」、「なぜ推進しなければいけないのか理解できない」といった否定的な意見もありました。

そこで、今一度「男女共同参画の意義」について考え直すことで、男女共同参画のために何が重要で、何が重要ではないのかといったものが見えてくる同時に、次期計画への課題や問題点も見えてくるものと考えております。

参考に、国の「第5次男女共同参画基本計画」における、「基本的な方針」の冒頭部分についてご説明いたします。

政府は「社会のあらゆる分野において、2020年までに指導的地位に女性が占める割合が少

なくとも 30%程度となるよう期待する」との目標である、「2020 年 30%目標」を掲げ、官民においてその実現に向けた取り組みが進められてきましたが、政治・経済分野で進捗が遅れているなど、女性活躍の土壌形成は出来たものの、全体としての目標達成には不十分でありました。

我が国における取組の進展がまだまだ十分でない要因として、以下の3つを挙げています。

- ① 政治分野において立候補や議員活動と家庭生活との両立が困難なこと、人材育成の機会の不足、候補者や政治家に対するハラスメントが存在すること
- ② 経済分野において女性の採用から管理職・役員へのパイプラインの構築が途上であること
- ③ 社会全体において固定的な性別役割分担意識や無意識の思い込み、いわゆるアンコンシャス・バイアスが存在していること

これらの課題への対応や、国内外でセクシュアルハラスメントや性暴力など、女性に対する暴力に関する問題の根深さが浮き彫りになったこと、我が国のジェンダー平等への取組が諸外国に比して遅れていること、グローバル化が進む中、ジェンダー平等への取組は、世界的な人材獲得や投資をめぐる競争の成否を通じて日本経済の成長力にも関わる、等々の理由から、危機感をもって男女共同参画に強力的に取り組む必要がある、としています。

このように、国は男女共同参画を重要視して推進しようとしている一方、市民アンケートにおいては「多様性ばかり押し付けられて普通でいることが悪のようなものになる」、「男女共同参画は、名称とは裏腹に片方の性の優遇のみを目指しているように見える」、「男女共同参画推進で男女ともに働くことになってしまい、家事育児を担当していた女性側に負担が大きくなっている」との否定的な意見も見られます。

委員の皆様にも「男女共同参画」に思うところがある方もいらっしゃるかと思いますので、是非様々な角度からご意見をいただければと思います。

なお、事務局としては、これまでの女性の参画に加え、男性の課題解決のための施策や家事・育児に専念したい方への施策についても、次期計画の新施策として検討したいと考えています。

【 委員からの意見 】

- ・ 一緒に働いている女性たちを見ると、能力がある女性が非常に多いことに気づく。能力が適性でも、育児や長期的な育休、子どもが熱を出して緊急で休まなければならないことがあり、その点のバックアップ体制が取れば、女性の採用の比率や活躍の場は増えると思う。
- ・ 資料5を見て、社会全体や家庭内で、男性から見た「平等」と女性から見た「平等」が、大きく違いがあるように感じる。

「②家庭内」で見ると、特に男性は平等だと思っても、女性はそうではないと感じている。女性はすごく自分ではやっているし、もっと手伝ってもらいたいと感じていて、そこに不満が隠れているように思う。しかし、男性側も十分やっている、と考えて

いるように思う。

「③職場内で」を見ても、女性の方は「平等」の割合が男性より低い。

男性も女性も平等と言える社会や家庭になれば、お互いに幸せな社会になっていくのではないかと感じる。

- ・ 女性・男性にしかできないことは当然あるので、お互いを尊重することが重要だと思う。男女で差異はあるため、全てにおいて男女平等にすることに違和感があるが、雇用の問題や賃金格差についてなど、常に平等でなければいけないことはあるため、その他、本来平等でなければいけないようなところを是正するよう努力していけばいいのではないかと思う。

(2) 女共同参画に関する市民アンケート（問6）の回答結果について

【事務局の説明】

続きまして、「男女共同参画に関する市民アンケート（問6）の回答結果について」です。資料4をご覧ください。

男女共同参画基本計画などでも取り上げられるよう、昨今、政治分野・自治会や消防団などの地域活動での男女比に偏りがあることが問題視されています。そこで、今回の男女共同参画に関する市民アンケートにおいて、問6を新設し、そもそものところ、こういった分野に興味・関心があるのかを問6で調査いたしました。

資料4は、問6のアンケート回答結果を男女別に分け、グラフ化したものです。結果を見ると、どの分野に関しても男女別で興味・関心に大きな差異はなく、ほぼ同一であることが伺えます。

例えば、PTAや自治会等において、男女間で興味関心に大きな差がないながらも、実際に男女比に偏りがあり男性が多いということは、少なからず「男性（女性）だから仕方なくやっている、やらされている」という部分があるのではないかと読み取れます。

また、資料5の⑦（市民アンケート結果 社会通念・慣習での男女間平等意識について）等を見ると、「1.男性の方が優遇されている」と「2.どちらかといえば男性が優遇されている」の回答が過半数以上をしめており、表面的には男性数が多いため優遇されているように見えても、男性からしたら「やらされているだけであって、優遇はされていない」と感じている人もいるのではないかと読み取れると考えています。

このようなアンケート結果を踏まえ、ただ今の捉え方以外でも構いませんので、委員の皆様の多角的な見解などを頂戴できればと存じます。

【委員からの意見】

- ・ ラジオで元国会議員の女性が「女性が国会議員になっても、なった後の活動が十分にできていない、という評価がされている。国会活動中、当然活動はできるが、それ以降の夜間の業務については、子育て中の人だとなかなか参加できないことが多く、それだけをもって活動が十分にできていないといった評価をされると困る」と話していた。そ

のような話があるが、一方で女性の方も「夜だからお父さん行ってよ」ということもあると思う。

各家庭で家庭環境等が異なると思うが、お互いにカバーしてやれるときはやる、という環境ができると良いと思った。

- ・ 自治会等に興味のある女性がいることに驚いたが、現在、自治会はどうしても男性社会がほとんどであると感じている。地元の自治会に聞いてみても、女性が役員をやっているのはごく一部であり、ほとんどの方が男性である、とのこと。

理由としては、役員を頼みに行くとき、輪番制でやっているため、その「家」に対して頼みに行くことになる。するとどうしても「ご主人同士の話」となり、結果、奥さんではなくご主人が行くという結果になってしまう。

そのような慣習のため、役員の中から区長や自治会長が当然選ばれるため、役員になっていない女性が区長や自治会長にはなれない、という構造になっている。どこかで役員の裾野を広げ、女性が入りやすいような形が必要であると感じている。

- ・ 女性もこれからは管理職を目指していいという方向性がいろいろな会社で出てくるといいと思う。

市内の企業の多くは中小企業であるため、自身で女性活躍を進めるのは難しいのではないかと思う。セミナー等を市役所で開催していただきたいと感じた。

(3) 議題以外での意見

- ・ 資料3の自由意見を読み、「自分の職場や同世代の意見とは違いそう」と感じた。

このアンケートは幅広い年齢層が回答されており、世代によって考え方が違うのでは、とも感じた。自身の同世代では、夫婦共働きしながら家事を分担して、育児も分担するように、夫にも協力してもらっているって方もいるので、女性ばかりに押し付け、男性が育児に関わることに否定的な人ばかりでもない、と思う。回答した年代等の詳細が分かるようにすると、この後の対策を考えやすいと思う。

- ・ 年齢や性別によって回答に偏りが出てくると思うため、そのあたりを分けて考えると、はっきりした意見の違いが見え、対策の打ち方が考えやすいのでは、というふうに考える。
- ・ 事業所等でも、女性は事務方をやっているというイメージが強くある。雰囲気としては管理職を目指すという認識が少ない、と感じている。
- ・ 年代別で考え方や捉え方が違うと思うので、年代別の集計があると良いと感じた。
- ・ 私の家庭は夫婦共働きで、子どもが熱を出した際に子どもは母親に隣にいてほしいと感じる。しかし、共働きであるため、交代で休むことがあるが、子どもからは「なんでママじゃないの」と言われた経験を思い出した。得手不得手やその他事情はあるが、妻の仕事のためにも妻に負担をかけすぎないよう協力することが大切だと感じた。
- ・ PTA活動は平日の日中に行うことが多いため、働く男性が出ることは難しい。対して休日の公園の草刈り、ミニバスケットボールの送迎には父親が来ることが多い。そう

いった点から平日の日中から夜間、土曜日の午前中といった参加しやすい時間帯に変更する学校も増えてきていることから、変更できる点は変更していくべきなのではないかとアンケートを読んで感じた。

- ・ ある小学校1年生の男子生徒から、入学したタイミングで「校長先生は男性じゃないのか」と何度か指をさされている場面があった。前任も女性の校長先生で、2年生以上の生徒は女性の校長先生を受け入れている。その男子生徒に聞いてみたところ、「保育園の園長先生が男性だったから」と答えられ、校長室の前にある看板をみたところ、そこに写る校長先生の絵画は眼鏡をかけた男性だった。そういったところから校長先生は男性であるというイメージが幼いころから刷り込まれているのではないかと思い、学校教育自体も気にかけていくべきではないかと感じた。
- ・ アンケートを見た際、木更津市は人口が多いのにも関わらず回答数が少ないと思い、この結果から議論をするのは難しいのではないかと感じた。また、男女共同参画という言葉の硬さもあり、市民の興味関心が沸かないのではないかと感じた。
- ・ 男女共同は身近な話ではあるが、意見したところで変わらないのではないか、という考えがある。女性は家事、男性は仕事という慣習が長く続いているうえに、女性には妊娠出産という時期があり、男性と同じように仕事はできない。そういった点から男女共同を全て男女一緒にする考えは難しいのではないかと思った。
- ・ 男女共同参画は、性の違いにより、仕事や家庭生活など、生活する上での課題や差別がある場合に、解決のための事業を実施するという方向で良いと考える。また、男女共同参画推進にあたっては、思いやりや優しさを持つという原点に立ち、事業を進めていくべきである。
- ・ アンケートのサンプルとして企業の規模の違いを一緒にたにしてアンケートを取るとするのがよくないと感じた。大きい企業だと女性職員の数も多く、対して中小企業は女性の数は少ない。そうなる問題意識に大きな差ができるため、アンケートの内容や課題だと考えている内容について、規模で分けてアンケートを実施し、聞き分ける必要がある。
- ・ 女性活躍推進法により、自身の職場では、女性が管理職につき、支社の事業部長として女性が活躍している。保険会社などは女性の社員が多く、人間的な面からも女性が管理職にならないといけないと感じている。年間で何度か女性向けのキャリアセミナーが開催され、女性が意欲的に管理職を目指せるような取り組みの準備が行われているといった認識を持っている。
- ・ 官公庁からの女性活躍の推進により、各企業で女性の管理職が増えているように思うが、それでも全体の1割程度である。まだまだ、比率が少ないため、公務員も民間も関係なく女性の管理職員の情報交換の場のようなものがあってもよいと思う。

上記会議録を証するため下記署名する。

令和8年2月18日

木更津市男女共同参画推進委員会委員長

佐伯 康子